

卒業生の声

● 2014年度卒（大学事務）

日本語を学んだことで、どの場面でも、言葉遣いに気を遣うようになりました。ふと、「この日本語は正しいのか」と、日常生活で考える場面が増えました。たくさん失敗して、たくさん経験した4年間。充実していたからでしょう、あっという間でした。この学生時代がなかったら、今の自分はいません。大切な思い出です。

● 2018年度卒（日本語教師）

相模での学びを通して、日本語教師としての基礎を築くことができ、教育現場で働く上で大変役に立っています。日本語教師になるために必要なことを十分に学べ、実りのある時間を過ごすことが出来ました。様々な授業やボランティア活動を通し、成長を感じられた4年間でした。相模女子大学に入学して良かったです。



● 2024年度卒（一般企業）

卒業研究では、何かをすることの大切さを学びました。私は卒論のテーマを決めてから、進展が無いと思われた期間が長かった。でも、振り返ると、論文を集めたり読んだりしているだけと思っていたその期間も実は重要でした。全てを放置せず、その時出来ることをしておく、それが身になると実感しました。



2025年度
ニチブン
学科の学びシリーズ



日本語学



相模女子大学 学芸学部 日本語日本文学科

神奈川県相模原市南区文京2-1-1
042-742-1411（代表）
<https://sagami-nichibun.jp>

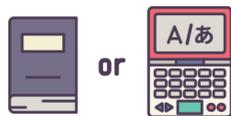


日本語学



普段何気なく使っている日本語を分析し、その内容を相手に伝えるということは、実はとても高度な思考作業です。その過程では、自分の感性や知性、思考力、表現力なども浮き彫りになってきます。

場合によっては、日本語の研究を通じて、今まで気づいていなかった「自分」と出会うことにもなるかもしれない。そんな醍醐味も味わってもらえれば良いと思います。



母語と向き合う

デジタルカメラは、画素数が上がるとキメの細かい綺麗な写真が撮れるようになります。同じように、日本語を母語とする皆さんは、日本語力が上がることで、柔軟な思考や豊かな表現が可能になります。それは、言葉を使うその人自身を輝かせることでしょうか。日本語学にふれてみませんか？

担当教員



梅林 博人 教授



永谷 直子 教授

授業紹介



日本語学概論

1年生全員が受講する授業です。考える題材は、日ごろ自分が話している日本語、です。音声・音韻、語彙、文法、文章・談話など、さまざまな切り口で分析していきます。

日本語史

私たちが毎日使っている道具の中で、一番古いものは何でしょう？それは二千年近く使われてきた「日本語」です。遠い昔から脈々と受け継がれ磨きぬかれてきた日本語のいろいろな姿を学びます。

日本語研究

言葉の不思議、日本語の不思議。皆さんも一度は感じたことがあるでしょう。そんな疑問を考えます。文法や意味などの真面目なところから、歌詞、バイト敬語、方言等など。日本語なら何でも考えます。

日本語コミュニケーション論

コミュニケーションがうまくいく、うまくいかないとは…？この授業では私たちの日常のコミュニケーションを成り立たせている要素を分析し、人間関係とことばの関わりを考えていきます。

専門演習

学生が、興味関心をもった日本語について調査研究をし、発表を行う授業です。研究の対象となる日本語は、身の周りにたくさんあります。そこから何を取り出してくるか。日本語に敏感になって行く自分に気づくことでしょうか。

これまでの卒業研究の例

- スタジオジブリ作品のキャラクター名における音象徴
- 映画ポスターにおけるキャッチコピー
- 小説における会話文の文末表現の分析
- 漫才における笑いの分析
- 災害時のラジオ放送における「やさしい日本語」とは
- 首都圏の方言について
- 「普通に」考
- 紙の国語辞書の役割-国語辞書の多様化-
- 助詞の語順と言葉の意味について
- 日本語のオノマトペと英語のオノマトペ



卒業論文研究の思い出

卒業論文を書き上げた時の達成感はとても大きかったです。完成した論文を綴じて手に持った時、少し感動しました。これを自分が書いたんだ！、という驚きで。この後の人生に少し影響があるかも…。(2023年度卒)